

# 阪神・淡路大震災 アスベストに関するアンケート

ボランティア用

## < 調査の主旨・目的 >

アスベスト（石綿）は主に建材の材料として日本でも大量に使用されました。吸い込むと、10年以上たった後、肺がんや中皮腫といった重篤な病気を発症する恐れがあります。1995年の阪神・淡路大震災でも被災地の随所でアスベストが飛散し、環境庁（当時）の調査でも、一般大気よりも高いアスベスト濃度が計測されています。

近年、倒壊建築物やがれき処理に直接携わった労働者に、アスベストが原因とみられる健康被害が相次いでいます。わずか2カ月だけ臨時雇用でがれき処理に関わった宝塚市の男性や、がれき回収に携わった明石市の職員ら、少なくとも5人が中皮腫を発症しています。震災から20年を経たこれから被害が増える心配もあります。

そこで、阪神・淡路大震災から20年のこの機会に、阪神・淡路大震災の復旧期間におけるアスベストの飛散状況や健康影響に関する実態調査をまとめ、公表するため、震災当時、被災地でボランティア活動をされていた方を対象にアンケートを実施いたします。該当される方にはお手数ですが、9月末日までにご投函くださいますよう、お願いいたします。

（実施：震災アスベスト研究会

事務局NPO法人ひょうご労働安全衛生センター）

## < 調査対象者 >

主に1995年1月17日から1996年12月末までの約2年間の間に阪神・淡路大震災の被災地でボランティア活動されていた方で地域外居住の方。

本アンケートは郵送による返信のほか、「立命館アスベスト研究プロジェクト」のホームページ上でも受け付けています。



この事業は「阪神淡路20年事業」としてひょうご安全の日推進県民会議の助成を受けて実施しています。

<アンケートをお答えいただくにあたって>

※該当番号に○をつけ、記入欄があるものについてはカッコ内にご記入ください。

※回答可能な範囲でお答えください。

<質問項目>

(1) 阪神・淡路大震災からの復旧期間(～1996年未まで)において、被災地でボランティアをされていませんか？

1. はい。 2. いいえ。

※2を選ばれた方は質問(10)まで飛ばしてお進みください。

(2) 現在の年齢や性別、当時の主なボランティア活動地域を教えてください。

①現在の年齢

( )才

②性別

1. 男性 2. 女性

③活動地域(複数地域に該当する場合は全て選んでください)

1. 神戸市 ※特定できる場合は区も教えてください( )区)

2. 尼崎市 3. 西宮市 4. 芦屋市 5. 伊丹市

6. 宝塚市 7. 川西市 8. 明石市 9. 三木市

10. 淡路島

11. 特定できない、不明

12. その他( )

④おおよその活動延べ日数

( )日

(3) 当時のボランティア活動において、建材を含むがれき処理に関わる作業をされたことがありますか？

1. 掃除などで直接がれきを扱ったことがある。

2. 直接触ったことはない。 3. よく覚えていない、わからない。

(4) 当時のボランティア活動において、周辺で倒壊建築物の解体工事が行われていることがありましたか？

1. よく解体工事が行われていた。

2. ときどき解体工事が行われていた。

3. ほとんど解体工事を見かけなかった。

4. 覚えていない、解体工事は見かけなかったと思う。

(5) 当時の被災地の空気についての印象はどうでしたか？

1. 非常に粉じんがひどかった。 2. いつもほこりっぽかった。

3. ほこりっぽい時もあった。 4. 特に気にならなかった。

(6) 阪神・淡路大震災の時点でのアスベストの認識についてお聞きします。  
震災前や復旧期間においてアスベストの危険性はご存じでしたか？

1. 全く知らなかった。
2. よく知らなかった。
3. 少し知っていた。
4. よく知っていた。

(7) 当時、粉じんやアスベストを意識しての自発的な健康対策をされていま  
したか？ 該当するもの全てに○をつけてください。

1. 粉じん用のマスクの使用。
2. 一般的なガーゼマスクの使用。
3. 解体工事現場に極力近づかない。
4. 発じんの酷い現場に対して苦情。
5. 特になし。
6. その他 ( )

(8) 当時の被災地ではアスベストによる大気汚染が起こっており、他地域に  
比べて住民のアスベスト健康リスクが高いと考えられます。そのこと  
によるご自身の将来的な健康不安を感じることはありますか？

1. 強く健康不安を感じている。
2. 少し健康不安を感じている。
3. ほとんど健康不安は感じない。
4. 全く健康不安を感じない。

(9) あなたの健康状態について、呼吸器系の病気や不調の有無について教え  
てください。

1. 特に病気や不調はない。
2. 病気の診断を受けたことや不調がある。

→具体的に

--

—————これ以降は全員の方がお答えください。—————

(10) その他、阪神・淡路大震災での復旧作業や東日本大震災などの他の震  
災被災地でのアスベスト対策に関してのご意見やご感想、当時の被災地  
におられた知り合いやボランティア仲間でアスベストによる健康被害  
の方がいるなどがございましたら、ご自由にご記入ください。

1. 特になし。
2. 下欄に記入。

--

(11) 今後、電話や郵送などでの問い合わせにも対応可能の方はお名前、住所、連絡先をご記入ください。

氏名〔                      〕 住所〔 〒                      〕

連絡先（電話・FAX・Eメール）〔                      〕

※個人情報追跡調査時の連絡のためにのみ使用し、それ以外は一切利用しません。最後までお答えいただき、ありがとうございました。

### ■調査実施：震災アスベスト研究会■

本団体はNPO法人ひょうご労働安全衛生センターを代表団体とし、神戸大学、立命館大学の研究プロジェクトなどと共同で、震災時に飛散したアスベストによる健康被害の予防や情報発信に取り組んでいます。

650-0026

神戸市中央区古湊通1-2-5 3階

NPO法人ひょうご労働安全衛生センター内

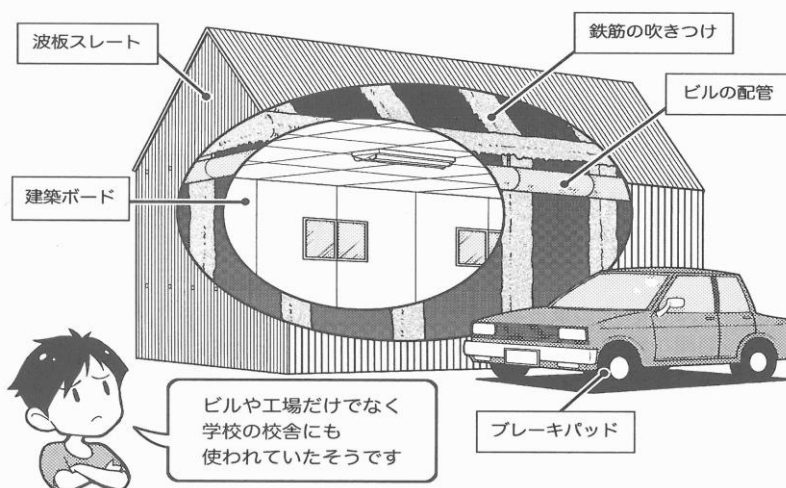
TEL：078-382-2118、FAX：078-382-2124

(調査担当：南慎二郎・立命館大学非常勤講師)

#### どんなものに使われていたの？

#### アスベストの用途は3000種類以上にのぼります！

日本では8割以上が建築資材として使用され、みぢかなところでは、ビルや工場の波板スレート、建築ボード、配管、鉄筋の吹きつけ、自動車のブレーキパッドなどに使われました。



特に断熱材としてさまざまな製品に使用されていました。

「マンガで読む震災とアスベスト」  
(発行・神戸大倫理創成プロジェクト)より